

断(オバシ測定)でも70%以上の改善率を計測している。例えば、1か月の走行が1方2000キロの13トトラックでは、燃費が3・68から4・37に向上した。施工は1台あたり3時間程度。集積されたデータから、2年以上の継続効果を確認している。費用は数か月から1年で回収できる実績があるという。現在、施工受付以外に技術提携先も募集中。詳細は<http://www.ecologytruck.jp/>。(小澤 裕)

安全から営業まで 社内報で情報共有

—— 越野運送 ——

越野運送(越野泰弘社長、大阪市都島区)は約4年前から、教育の一環として全営業所で回覆や掲載ができる



河野営業部長(左)と杉崎管理部長

よう、社内報の「越野運送ニュース」を作成している。安全、品質、環境、健康、営業の5項目を、杉崎幹大管理部長と河野守忠営業部長が毎回担当して発行している。

西氏は「ミーティングにドライバーが集まれないことや活字離れが進んでいることもあり、字を読む習慣づけもかねて作るようになった」と発行の経緯を説明。事故発生数やトラックの日帰検の仕方、グリーン経営で改善した点などの情報を掲載している。杉

崎氏は「社長の考えや思いなどを、ドライバーに分かちあす(伝わる)という書い(中社報)が

一番難しい」と語る。また、営業担当の河野氏は、営業でドライバーの仕事のつらさや会社の業績のほか、「お客様からのお礼のメールなどを掲載する」という。「自分のスキルアップにもなり、管理部に影響を受けて作り始めた。ドライバーに業界が置かれている立場を理解してもらうため発行している」という。

西氏は「暇つぶしにく従業員が興味を持ってくれるような内容を心がけている。明(話)も混ぜながら、コミュニケーションツールとして、これからは発行していきたい」と語る。

(中社報)